

令和3年度 学校評価

【教育の基本方針】(尼崎市教育振興基本計画)

- 1 未来志向の教育
- 2 個の尊厳や人権の尊重
- 3 家庭・地域社会との連携(子どもの視点に立った教育)

[各校の重点取組について] 「自分を、そして、人を大切にしよう」～対話を大切にしたい学びあい～

見えない4つの力を獲得する生徒へ 1、人を大切にする力 2、自分の考えを持つ力
3、自分を表現する力 4、チャレンジする力

学校評価の観点

1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力の育成と健やかな体づくりに取り組む	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校長)
(1) 授業改善の取組を促進するとともに、客観的なデータを踏まえた確かな学力の保証及び織のつながりを重視した校種間の連携に努める (2) 障害の有無やその他の個々の違いを認識しつつ、様々な人々が生き生きと活躍できる共生社会の形成の基礎となる特別支援教育の取組を充実させる (3) 食育を通して生活改善の取組を促進し、健全な心と身体を培い、豊かな人間性の育成を図る (4) 体育・スポーツ活動の取組を促進し、体力・運動能力の向上を図る (5) 積極的にICTを活用し、情報活用能力の育成を図る	3.2	3
取組	成果	課題と改善策
○授業改善指定校として、職員研修及び研究授業に取り組んだ。 ○校内支援委員会を立ち上げ、個別具体的な状況について取り上げる取り組みを行った。 ○給食開始に伴い、食に関する意識を高めるために、給食クイズを作成することに取り組んだ。	○授業改善の視点についての共通理解を図ることができた。 ○研究協議において各教員の授業観について話し合うことができた。 ○給食、アレルギー対応を含めて、全職員で取り組むことができた。 ○発達課題のある生徒の困り感について共有することで支持的、支援的な指導について共有することができた。	○学力向上については、以前課題もあるが、今後、デジタルドリルの取り組みや研究授業の持ち方などについても検討し、更なる向上に努めるものとする。 ○発達課題のある生徒についての情報共有を図るとともに、生徒の困り感に対応するための方策について、専門家派遣を検討する。

2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校長)
(1) 基本的な生活習慣確立の取組を促進し、心身共に健全な育成を図る (2) 道徳性育成の取組を促進し、多様性を受容し、思いやりに満ちた人間関係及び社会とのかかわりづくりに努める (3) 各校のいじめ防止基本方針に基づき、誰もが安全・安心して過ごすことができる学校の環境づくりに努める (4) キャリア教育の取組を促進し、社会的自立に必要な能力を育成を図る (5) 不登校にならないようにするための学校づくりを進めるとともに、不登校児童生徒の学習環境の確保や家庭への支援に努める	2.9	3
取組	成果	課題と改善策
○毎月の学校目標を掲示し、朝会で話することにより、自立や人との関わりについて考えさせる取り組みを行った。 ○学期に一回の生徒アンケートから、いじめに係る回答については組織的に共有するとともに生徒の話を聞きその対応に努めた。 ○ものづくり大学やプロから学ぶ創造力育成事業を活用し、生徒のキャリア形成に取り組んだ。 ○不登校担当を中心として、保護者や関係機関との連携を図り、通級、別室等の環境設定に取り組んだ。	○生徒アンケートからの見取りによる生徒との個別面談により、生徒の心理解に基づいた支援を行うことができた。 ○キャリア形成の取り組みから、進路や将来の目標について意識が高まった。 ○学校に来づらい生徒については、保護者と連携し、関係機関につなげたり、生徒の学びの場や居場所の支援を行うことができた。	○人間関係に悩む生徒や漠然とした不安など以前、不安や悩みを抱えている生徒も多い。このことから、教育相談機能の充実や関係機関との連携を図ることはもとより、職員のスキル形成や情報共有を一層図る必要がある。

3 家庭・地域・学校の連携を深め、活力に満ちた学校園づくりに取り組む	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校長)
(1) 教職員の資質向上の取組を促進し、業務改善を進めながら学校の組織力及び教育水準の向上を図る (2) 学校と地域との連携・協働を推進し、地域とともにある学校づくりに努める	3.2	3
取組	成果	課題と改善策

<p>○定時退勤、ノー会議、ノー部活を設定することで、生徒支援や授業研究の時間を捻出している。</p> <p>○学校だより、学年だよりにて生徒の様子や取り組みを伝えとともに、学校HPや学校掲示板にて伝えることをした。</p>	<p>○様々な媒体を活用することは、コロナ禍において、学校の取り組みを発信すること有効であった。</p>	<p>○コロナ対応、新たな教育課題、多様な生徒への支援など多岐にわたる取り組みを行っている。時間的リソースをどのように配分、重点化してしていくかは今後も検討課題である。</p>
--	--	--

<p>4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る</p> <p>(1) 安全教育的取組を促進し、登下校及び学校園内の安全確保を図る (2) 防災教育的取組を促進し、危機管理能力の向上を図る</p>		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校長)
		3	3
取組	成果	課題と改善策	
<p>○火災避難訓練を行い、消防署職員の指導のもと、消火訓練を行った。</p> <p>○消火器・消火栓配置図を刷新し、職員へ配布するとともに、職員の初動について管理職から指導を行った。</p> <p>○地震避難訓練では、生徒への周知なしの訓練を行った。</p> <p>○一斉下校を行い、校区内における危険箇所や通学上の安全指導を行った。</p>	<p>○消防署職員の来校により、生徒の火災訓練への意欲も高まり充実したものとなった。</p> <p>○職員の初動について、全職員が避難行動とならないように初期消火への備えについて指導を行い、火災に対する認識を深めることができた。</p>	<p>○本校においては、不審者対応訓練が実施できていない。生徒指導事案に関する組織的な動きは迅速であるが、不審者における組織的対応についての訓練は必須であると考えている。</p>	

<p>教育目標</p> <p>(1) 教育目標の達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 教育目標の具現化と指導の充実</p>		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校長)
		3.1	3.5
取組	成果	課題と改善策	
<p>○一人ひとりの生徒理解に努めるため、今年度より校内支援委員会を立ち上げた。</p> <p>○アセスを実施し、生徒理解を深めるとともに、学級、学年の実態に迫ることができた。</p> <p>○生徒指導委員会、不登校委員会を定期定期に開催し、生徒の問題行動や不登校の状況について共有した。</p>	<p>○各種情報共有の会議を持つことで、全体の生徒理解へとつながり、支持的な風土ができてきた。</p> <p>○管理職の考えたやをクラスルームやGmailなどで適宜情報を伝えることで、職員集団的な機能が高まった。</p>	<p>○発達課題のある生徒や保護者理解などについて、校内にて意見交換する場をもつことで、職員全体の見立て力をあげる必要がある。</p>	

<p>研究テーマ</p> <p>(1) 研究テーマの達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 研究テーマの具現化と指導の充実</p>		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校長)
		3.1	3
取組	成果	課題と改善策	
<p>○対話重視の授業展開が行えるよう研究推進を中心に授業改善に努めた。</p> <p>○授業改善実践校として、校内において数学科と英語科の研究授業を行った。</p>	<p>○実践校としての取り組みに伴い、学期ごとに指導主事が授業に係る指導をしたことで各教員の授業観を深めることができた。</p>	<p>○日頃の授業において、以前、教員からの伝達型の授業に終始していることもある。</p> <p>○今後は、1時間の中で生徒が発信する場面や単元計画の中で、主体的な学習場面ができるよう、各教科において検討する必要がある。</p>	